

愛労連第 58 回定期大会あいさつ（要旨）

代議員のみなさん。大会参加お疲れ様です。またご来賓のみなさまにお礼申し上げます。

2 週間前に発生した西日本豪雨災害は九州から岐阜県にわたる広い記録的大災害となっています。被害に遭われた皆様にお見舞い申し上げます。私たちは東海豪雨で全国から支援をいただきました。その経験をいかし、愛労連はただちに支援を呼びかけ、広島、岡山、愛媛の 3 県労連にタオルとマスクを送りました。引き続き現地の要望に応える支援を行いたいと思います。

ところが、多くの住民が土砂と激流に流され救助に全力をあげている最中に安倍首相や小野寺防衛大臣など 50 名もの自民党議員・閣僚が議員宿舎で宴会を開催していました。国民からの批判の声にお詫びもありません。支援の先頭にたつどころかカジノ法案の成立のために 2 週間にわたり審議を続け、19 日には強行採決まで行いました。カジノ資本の利益を優先する安倍政権です。

延長国会では過労死を合法化しかねない高プロ法案も成立させました。有識者委員である竹中平蔵氏は最初は 1% くらいから導入し、大きく拡大していくことを公言しています。この法律の最大の問題はこの 200 年間に労働者が闘い取ってきた、労働時間による規制をはずすところにあります。国際人材ビジネスが露骨に利益をもとめ、労働者を人間ではなく「労働資材」として売買するようになっています。モリカケ疑惑も公文書偽造もカジノ特区も内閣府が国の人事を一手に握るようになってからおきています。ここに今の政治腐敗の根源があります。

愛労連は来年結成 30 周年をむかえます。この間、愛労連には数多くの労働相談をはじめ様々な分野から期待が寄せられるようになってきました。トヨタ総行動を重ねるなかで中小企業団体のみなさんとの懇談が始まり、戦争法反対で愛知県弁護士会からの協力要請を受けました。昨年度は初めて労働問題で弁護士会との懇談をもち、今後も定期的開催することになりました。憲法・平和、生活保護・年金・消費税などくらしの問題でも従来にない共同が拡大しています。今月末にはメディア関係のシンポも開催されます。市民と労働運動の共同がかつてなくひろがっています。

いっぽう愛労連結成の中心となってきた団塊の世代が職場を離れ、正規職員が大幅に減らされるなかで組合員が減っています。シフト勤務がひろがり職場活動の時間も取りづらくなっています。ひろがる期待に比べて私たちの組織は十分ではありません。

労働者の力は団結です。バラバラにされた労働者のつながりを強める新しい工夫が求められています。全労連は SNS の活用を呼び掛けていますが、これからは仲間のコミュニケーションをどう強めていくかも課題になっています。様々な、困難はありますが、組合員のちからを引き出し、愛労連の新たなステージを目指してがんばりましょう。

2018 年 7 月 22 日

愛労連議長 樽松佐一